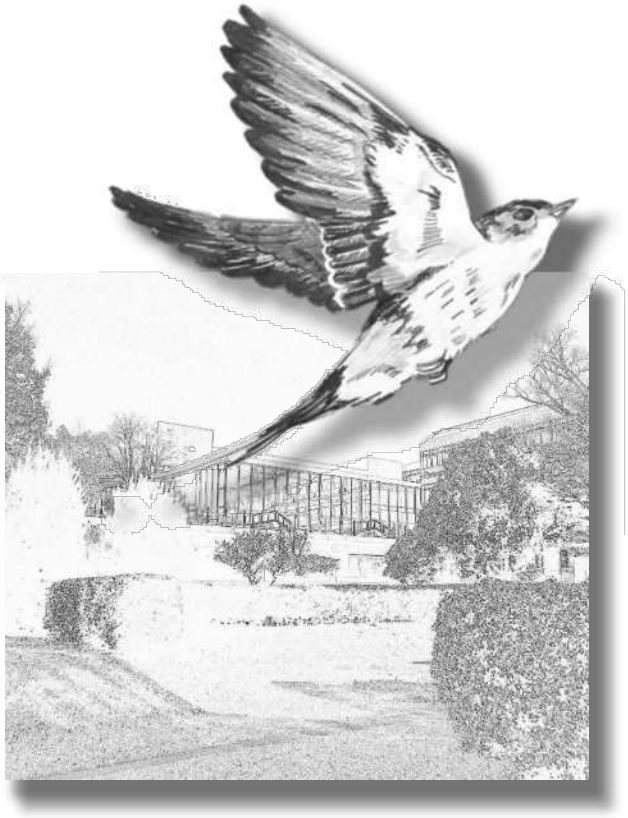
令和７年度

小・中・義務教育学校

中堅教諭資質向上研修【前期】の手引



愛知県総合教育センター

愛知県

目　次

小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】１年間の流れ

Ⅰ　中堅教諭等資質向上研修実施要項　1

愛知県教員育成指標　3

研修イメージ図　4

Ⅱ　研修の実施及び書類作成について

1　受講前の提出書類　5

2　自己評価・自己申告表の作成と校長面談について　**様式１**　6

3　研修計画書（案）の作成及び研修の概要　**様式２**　7

4　報告書の提出　**様式３**　１１

Ⅲ　各種様式　１２～

小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】１年間の流れ

３月下旬 WEB **小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】の手引アップロード**

４月中旬～５月下旬　事前の評価と計画書の提出

作成

作成書類	内　容
鑑	（様式例あり）
様式１	自己評価・自己申告表　➡　校長に提出
様式２	小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】研修計画書（案）

※研修者は、申し込み後、様式１・２の作成を開始する

面談　**校長との面談**

提出

提出物	提出先	提出期限		
様式２	**市町村教育委員会**	**令和７年 ５月１２日（月）**	**→教育事務所 令和７年 ５月１９日（月）**	**→総合教育センター 令和７年 ５月３０日（金）**

４月中旬 サポシス **研修の申し込み（４月１５日締切）**

５月下旬 サポシス **総合教育センターより、研修者の通知及び実施要項等の送付**

５月末日 WEB **教科指導研修シラバス（日程・会場・課題の有無・持ち物等）アップロード**

６月～12月　研修の実施

研修内容		日程・期間等	
校外	総合教育センター等における研修	共通・選択	小：令和７年８月１９日（火） 中：令和７年８月２０日（水）
		教科指導	各教科が指定した６月～１１月の２日間
	ｅラーニング	４講座	①令和７年５月２７日（火）～令和７年６月２７日（金） ②令和７年８月１９日（火）～令和８年１月９日（金）
校内	校内研修	OJT(教科等指導力向上)	

２月下旬まで　研修のまとめ

作成

作成書類	内　容
鑑	（様式例あり）
様式３	小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】実施報告書

面談　**校長との面談**

提出

提出物	提出先	提出期限		
様式３	**市町村教育委員会**	**令和８年 ２月２日（月）**	**→教育事務所 令和８年 ２月１０日（火）**	**→総合教育センター 令和８年 ２月１９日（木）**

Ⅰ　中堅教諭等資質向上研修実施要項

１ 目 的

教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において、中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての自覚の涵養、専門性の向上、得意分野の伸長等により資質・能力の向上を図る。

２ 対 象

中堅教諭等資質向上研修の対象となる教員（以下「研修者」という）は、次のとおりとする。

(1) 小中・義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教諭、養護教諭、栄養教諭

【前期】…　別表を参考とし、在職期間が５年を経過した者とする。

【後期】…　別表を参考とし、在職期間が１０年を経過した者とする。

ただし、在職期間が９年を経過した者の一部も対象とする（以下「弾力化研修者」という）。

(2) 幼稚園・幼稚園型認定こども園・幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という）の教諭、保育教諭

在職期間が７年を経過した者とする。

３ 内 容

中堅教諭等資質向上研修の内容は、次のとおりとする。

(1) 校（園）外研修

ア　総合教育センター等における研修

中堅教諭等資質向上研修の趣旨に基づき、共通研修に加え、個々の能力・適性等に応じた選択研修を設け、資質・能力の向上に資する。また、担当教科あるいは領域についての専門性を高める研修を実施する。

イ　ｅラーニング研修

総合教育センターから配信される研修教材のうち、中堅教諭等資質向上研修の趣旨に基づく研修教材を、個々の教員がコンピュータを利用してオンラインで学習する研修を実施する。

ウ　異校種等研修（【前期】を除く）

異校種の学校（園）を訪問し、教員としてのマネジメント力を育成するために、異校種等の組織の在り方や経営ビジョンを知り、学校（園）運営に関する新たな見識を得ることで、教員としての幅広い資質向上を図る研修を実施する。

(2) 校（園）内研修

総合教育センター等における研修との関連を考慮しつつ、校（園）内だからこそできる研修を実施する。また、特定課題研究を必修とする（【前期】を除く）。自ら伸ばしたい領域・分野をテーマとして研究し、年度末に発表会を設けて、校（園）長等が指導・助言をする。

４ 方 法

中堅教諭等資質向上研修は、次の方法で実施する。ただし受講の弾力化で申し込みした者は、４月下旬に受講が許可された場合のみ実施する。

(1) 研修計画の作成

ア　愛知県教育委員会または市（研修によっては、政令指定都市及び中核市を除く。以下同じ）町村教育委員会は、その所管する学校の研修者の能力、適性等について評価を行い、その結果に基づき、年間研修計画を作成し、その計画書に従い１年間の中堅教諭等資質向上研修を受けさせるものとする。

イ　校（園）長は、研修者の「自己評価・自己申告表」を基に、面談に基づいて事前評価を行う。研修者は校（園）長等の助言を得ながら研修計画書（案）を作成し、校（園）長へ提出する。校（園）長は研修計画書（案）を教育委員会へ提出する。

ウ　教育委員会は、校（園）長から提出された研修計画書（案）について、必要な調整を行い、決定

する。

(2) 研修の実施

研修者は、総合教育センター・所属校等において、研修計画書に従い研修を実施する。

(3) 評価

校（園）長は、中堅教諭等資質向上研修終了後も、研修者が引き続き資質・能力の向上を図るために、研修終了時に事後評価を行い、報告書に所見を記入する。その結果を、当該研修者に対する今後の指導や研修に活用する。

5 その他

(1) 任命権者及び校（園）長は、授業等の校務に支障がないよう、また、研修の時間を十分とることができるよう、各学校（園）における校（園）務分掌、行事計画等において十分配慮する。

(2) 旅費については、各学校において職員等の旅費支給規程に基づき支給する。幼稚園等は、各市町、園等の旅費支給規程に基づき支給する。

(3) 実施状況調査を行う（幼稚園等を除く）。

＜別表＞

国立学校、公立の学校または私立の学校である小学校等の教諭等として在籍した期間が５年または１０年（弾力化研修者は９年）を経過した者とする。

＜期間を計算するときの留意点＞

１ 在職とみなす期間

指導主事、社会教育主事その他教育委員会において学校教育または社会教育に関する事務に従事した期間

２ 在職期間から除算する期間(以下の期間が1年以上連続する場合等)

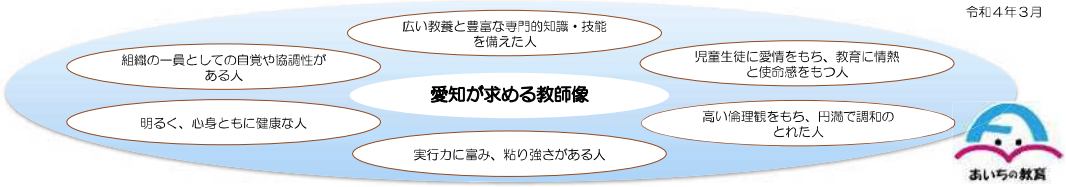
- 休職等により、職務を執ることを要しない期間
- 育児休業等を取得した期間

＜中堅教諭等資質向上研修の研修者から除く者＞

- 臨時的に任用された者
- 他の任命権者が実施する中堅教諭等資質向上研修（【前期】は５年経験者研修を含む、【後期】は１０年経験者研修を含む）に相当する研修を受けた者
- 地方公務員の育児休業等に関する法律または地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律の規定により任期を定めて採用された者
- 指導主事、社会教育主事その他教育委員会の事務局において学校教育または社会教育に関する事務に従事した経験を有する者で、任命権者が当該者の経験の程度を勘案して中堅教諭等資質向上研修を実施する必要がないと認める者

令和４年３月

愛知県 教員育成指標【教諭】

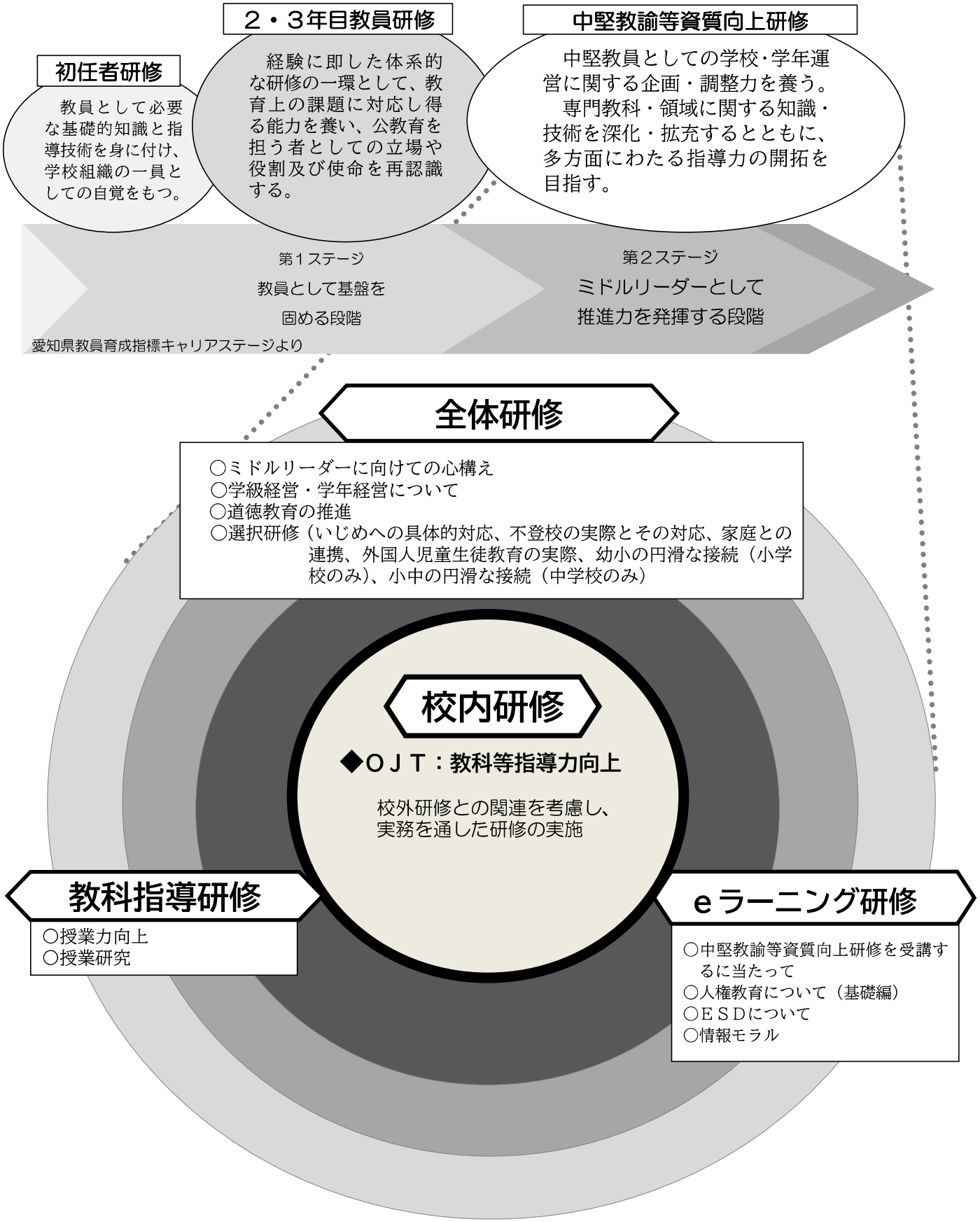


ステージ / 資質・能力		愛知県が求める着任時の姿	第１ステージ 教員としての基盤を固める	第２ステージ ミドルリーダーとして推進力を発揮する	第３ステージ シニアリーダーとして牽引力を発揮する
素養	教育的愛情・使命感・責任感	○児童生徒の伸びようとする姿を捉え、愛情をもって寄り添い、支え続け、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○児童生徒の未来を真剣に考えるとともに、将来を担う児童生徒の成長を請け負う使命感や責任感を自覚する。			
素養	倫理観・人間性・行動力	○高い倫理観をもち、法令を遵守し、児童生徒の手本となるような立ち振る舞いを心がけ、児童生徒との信頼関係を築こうとする。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間の姿を追究する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。			
素養	自己教育力・創造的思考力	○幅広い教養と高い専門性を備えつつ、常に自分の姿を振り返り、向上心を忘れることなく自ら学び続ける意欲をもっている。 ○新たな問題に直面しても、柔軟に対応するとともに、常に創意工夫しながら物事に取り組んでいこうとする。			
素養	コミュニケーション力	○自分の考えを伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを踏まえ、共通理解を図りながら協働的に行動する。			
指導力	児童生徒理解	○子供の発達の段階や成長に関わる基礎的な知識を身に付け、児童生徒理解の意義や重要性を認識し、一人一人に愛情をもち積極的に関わろうとする。	○児童生徒一人一人に愛情をもって接し、児童生徒との関係の中で、心情を捉える。 ○学級・学年への帰属意識を児童生徒に育成する姿勢をもつ。 ○家庭環境などの背景も踏まえて児童生徒を理解し、個々に応じた成長を促そうとする。	○児童生徒の情報共有の場を設定することで、児童生徒を取り巻く状況を的確に捉え、児童生徒の理解を深める。 ○学級・学年などの集団をリードする児童生徒を養成する姿勢をもつ。	○様々な情報に基づいて児童生徒一人一人の状況や変化を的確に捉え、適切な指導方針を立て、児童生徒を理解しようとしている。 ○児童生徒が互いを尊重し、学級・学年及び学校全体をよりよくしようという意識と広い視野をもてるように促す。
指導力	学習指導	○学習指導要領を基に、発問や板書、環境の構成などの基礎的な指導技術を身に付けたり、指導計画に従い、実践したりしようとする。	○適切な発問や読みやすい板書、ＩＣＴの活用、意図的な環境の構成などの基本的な授業力を身に付け、児童生徒の主体的な学びを引き出す指導力を培い、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 ○児童生徒の実態を把握し、授業のねらいを明確にして教材教具の工夫をするなど、事前の教材研究の大切さを理解して授業をする。 ○他の教員から学ぶなど自分の指導を改善しようとする。	○児童生徒の身近な社会・生活につながるような授業・単元の構想の工夫をし、ＩＣＴも活用しながら、主体的な学びを支える指導技術に習熟し、個別最適な学びや協働的な学びの実現を図る。 ○自らの授業改善、指導力向上に努めるとともに、専門性を高め、他の教員の授業に対して適切な助言をする。 ○校内研究会・校外研修会の企画・運営に携わり、校内研究体制の推進を図る。	○高い専門性を基に、周りにある教育資産や新しい指導方法、ＩＣＴを効果的に取り入れ、他の教員の模範となる主体的な学びの実現に向けた授業を行う。 ○学力向上や授業改善、授業評価などの視点を常にもち、学年や教科の授業改善をリードする。 ○学校全体の学習指導上の諸課題を把握し、校内の教育課程や授業づくりについて改善の視点で考え、組織的に実践を進める。
指導力	生徒指導	○生徒指導及びキャリア教育の意義を踏まえ、個や集団を指導するための手だてを知り、実践しようとする。	○個性の伸長、社会的資質や行動力の向上などの「生き方教育」「キャリア教育」とも共通する視点をもって児童生徒に対応する。 ○児童生徒一人一人の課題を捉えるとともに、保護者の思いを理解し、保護者や他の教職員と協力しながら組織的・継続的に児童生徒に対応する。	○学年・学校全体の児童生徒の特性や状況を的確に捉え、方針や手だてを示しながら、関係教職員や保護者と協力し、組織的・継続的に児童生徒に対応する。 ○経験を踏まえて問題提起や情報提供をしながら、経験の浅い教職員に適切な助言をする。 ○関係諸機関と連携して、指導の取組方針を的確に示し、具体的に指導する。	○個性の伸長、社会的資質や行動力の向上の視点をもって、組織的な取組を促す。 ○生徒指導を組織的・計画的に行うための長期的な見通しをもち、教職員に対して指導・助言をする。 ○他の教職員の抱える生徒指導・進路指導上の問題に気付き、適切な助言をする。 ○関係諸機関と連携を深め、問題解決のための体制づくりをする。
指導力	多様性への理解と教育支援	○人権感覚をもつとともに、児童生徒の個性を尊重し、個に応じた指導・支援をする必要性を認識している。 ○特別支援教育、外国人児童生徒等教育など特別な配慮を必要とする児童生徒の多様な背景を理解しようとするとともに、インクルーシブ教育の大切さを認識している。	○個の特性や背景を捉えながら、適切な実態把握をすることができる。 ○特別な支援を必要とする児童生徒に対して、個に応じた指導を計画的に推進する。 ○実践を通して、児童生徒の多様性への理解を深めるとともに、合理的配慮に基づいた指導・支援を行う。	○児童生徒一人一人の実態や特性を踏まえた上で、関係教職員と連携し、組織的な指導や支援が行えるように調整する。 ○児童生徒の多様性を理解するとともに、必要に応じて関係諸機関や専門家などとの連携を推進する。 ○教育支援に関する情報を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進する。	○校内委員会など組織的・継続的な指導や支援体制を整え、学校全体の視点でインクルーシブ教育を推進する。 ○人権や個々の価値観を大切にする教育の推進者として、経験の浅い教職員の相談や助言を行う。 ○関係諸機関や専門家などとの連携を積極的に図る。
マネジメント力	学級経営・学年経営・学校運営	○理想とする児童生徒の姿や自分自身の姿をもち、その実現に向けて、実践しようとする。 ○学校教育の意義や教育に関する今日的な課題などの教育に関わる情報を積極的に得ようとしている。	○学校教育目標を理解し、児童生徒の実態に合わせ、学級経営や教科経営の方針を立て、一貫性のある指導を行う。 ○学級内における良好な人間関係づくりを行う。 ○学年主任や他の教職員と協力しながら学年経営に参画する。 ○校内組織での自らの役割を自覚し、計画的に自らの職務を遂行する。	○学年や教科、分掌などの運営の中核となって、学校教育目標の実現に向けて工夫改善する。 ○分担された校務分掌について、目標や改善の視点を明確にして調整・実行する。 ○児童生徒同士のコミュニケーションを促進するとともに、個の特性を的確に捉え、学年や分掌における課題に応じた適切な対応策を提案する。 ○経験の浅い教職員に積極的にアドバイスをし、学校全体の組織力の強化を図る。	○学年経営や学校運営に参画し、課題の解決を図るとともに、他の教職員の学級・学年経営に適切な支援、助言を行う。 ○学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、改革意識をもって教育活動を活性化させる。
マネジメント力	学校安全・危機管理	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○児童生徒の安心安全を第一に考え、危険を予見するとともに対処する。 ○安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行う。	○安全に対する危機意識をもち、積極的に情報収集をし、課題を明らかにする。 ○学校の安全管理体制を点検し、課題解決に向けて積極的に提案、改善を行う。	○児童生徒の平常時の安全確保、事故などの未然防止、再発防止を組織的に推進する。 ○学校を取り巻く環境の危機管理について、学校と家庭や地域などとの協力体制を確立する。
マネジメント力	同僚との連携・協働	○社会人として良識ある言動をし、円滑な人間関係をつくろうとする。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に物事を進めようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善を進める。	○チームリーダーとして、教職員一人一人のよさを引き出し、それぞれの力を生かして対応できるようにリードする。 ○互いの課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。	○自らの経験を生かし、自校の課題に中心となって取り組み、組織全体の取組を改善する。 ○学校全体における教職員の特性を踏まえ、役割分担を調整するとともに、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境を整える。
マネジメント力	地域社会との連携・折衝	○教育公務員としての自覚をもち、社会とのつながりを意識して行動する。 ○家庭、地域、関係諸機関との連携の重要性を理解し、積極的に関わろうとする。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係諸機関と必要な連携をとったり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対処する。	○地域、関係諸機関と良好な関係を築くとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。 ○他校、異校種の教職員との連携・協力を推進する。	○家庭、地域、関係諸機関へ向けての情報発信とともに、地域資源（ひと・もの・こと）の活用を推進する。 ○家庭、地域、関係諸機関からのニーズの情報収集に努め、協働によって教育活動を推進する。 ○地域に貢献する活動を企画・調整する。

※特別支援学校においては幼稚部を含む。

研修イメージ図

小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】



Ⅱ 研修の実施及び書類作成について

1　受講前の提出書類

（1）提出書類

・鑑　　**様式例**　（p.１２）

・研修計画書（案）　**様式２**　（p.１４、１５）

（2）提出先と期限

本　　人

・「自己評価・自己申告表」**（様式１）**を作成し、校長へ提出する。

↓

校　　長

・研修者より提出された「自己評価・自己申告表」**（様式１）**を基に面談をする。
※研修履歴を活用した対話に基づく研修受講を推奨するための期首面談を兼ねて実施してもよい。

↓

本　　人

・校長等の助言を得ながら、「研修計画書（案）」**（様式２）**を作成し、校長へ提出する。

↓

校　　長

・研修者より提出された「研修計画書（案）」**（様式２）**に鑑を添付して市町村教育委員会へ送付する。
※複数の研修者がいる場合、後期も含めて一括で提出する。

↓

市町村教育委員会締め切り
令和７年５月１２日（月）

↓

市町村教育委員会

・市町村内全員の「研修計画書（案）」**（様式２）**を調整・決定し、（案）を取った上で、教育事務所へ送付する。

↓

教育事務所締め切り
令和７年５月１９日（月）

↓

教育事務所

・管内全員の「研修計画書」**（様式２）**を集約し、総合教育センターへ送付する。

↓

総合教育センター締め切り
令和７年５月３０日（金）

↓

総合教育センター

・「研修計画書」**（様式２）**を受領する。
・教科指導研修の詳細は総合教育センターウェブページ等で連絡する。

２　自己評価・自己申告表の作成と校長面談について　　様式１

研修者は、自らの課題や適性、得意分野等を再認識し、研修がより効果的なものとなるよう、受講開始に当たって自己評価を行う。作成した自己評価・自己申告表（**様式１**）は、校長に提出し、面談の際の資料とする。

（1）教員育成指標による事前自己評価

愛知県教員育成指標における８つの資質・能力について、中堅教諭等資質向上研修を通して特に伸ばしたい資質・能力に◎、伸ばしたい資質・能力に○を記入する（空欄があってもよい）。

（2）教科・領域等及び分掌に関して、得意分野として今後伸ばしたいことの概要

中堅教諭等資質向上研修の趣旨である「能力、適性等に応じた指導力の向上と得意分野づくり」を踏まえ、更に充実、深化させたい事項を記述する。

校長は、研修者より提出された「自己評価・自己申告表」（**様式１**）を基に、研修者と面談を行う。その際、次の点に留意する。

・教員育成指標に基づき、研修を通して成長を期待する資質・能力を研修者と共有する。
・研修者の研修意欲を喚起するとともに、研修内容が研修者にとってより適切なものとなるよう助言する。
・研修者の資質・能力の向上及び学校教育活動の活性化につながるようなものとなるよう、学校における教育課題の共有を図るようにする（ｐ．８、９参照）。
・面談は、研修履歴を活用した対話に基づく研修受講を奨励するための期首面談を兼ねて実施してもよい。

３　研修計画書（案）の作成及び研修の概要　　様式２

中堅教諭等資質向上研修の趣旨を生かし、研修者の資質・能力向上に資することを目的に、校外研修及び校内研修の計画を立てる。研修者は、校長等の助言を得ながら研修計画書（案）**（様式２）**を作成する。

（1）校長との面談を踏まえ、本研修を通して伸ばしたい資質・能力

「自己評価・自己申告表」**（様式１）**に基づいた校長との面談を踏まえ、愛知県教員育成指標における８つの資質・能力について、特に伸ばしたい資質・能力に◎、伸ばしたい資質・能力に○を記入する（空欄があってもよい）。

（2）校外研修【総合教育センター等における研修】

下表を参照し、研修日を記入する。

ア　小学校

開　催　日	研修領域	内　　容
各教科で指定する２日間 詳細は８頁の「教科別開催予定日」を参照	教科指導研修	内容は、各教科の計画による。詳細は、５月末日までに総合教育センターウェブページにアップロードされるシラバス（日程・会場・課題の有無・持ち物等）を確認する（研修事業＞中堅教諭資質向上研修【前期】教科指導研修シラバス）。
８月１９日（火） 小学校 全体研修	共通研修	講義「ミドルリーダーに向けての心構え」
		講義「学級経営・学年経営について」
		講義「道徳教育の推進」
	選択研修	次の講義・演習から一つ選び研修する。 **①いじめへの具体的対応** 事例を基に、いじめが起きたときの対応と、いじめを起こさないための取組について学び合う。 **②不登校の実際とその対応** 事例を基に、不登校への対応や不登校に陥らないための学級づくりの両面から、具体的な対応の仕方を学び合う。 **③家庭との連携** 事例を基に、保護者との連携を深めるための具体的な取組や課題等について、情報交換や意見交流を行う。 **④外国人児童生徒教育の実際** 小学校における外国人児童生徒教育の指導の在り方について学び、具体的な取組や課題等について、情報交換や意見交流を行う。 **⑤幼小の円滑な接続（小学校のみ）** 幼稚園と小学校の円滑な接続を図るための具体的な取組や課題等について、情報交換や意見交流を行う。

イ　中学校

開　催　日	研修領域	内　　容
各教科で指定する２日間 詳細は８頁の「教科別開催予定日」を参照	教科指導研修	内容は、各教科の計画による。詳細は、５月末日までに総合教育センターウェブページにアップロードされるシラバス（日程・会場・課題の有無・持ち物等）を確認する（研修事業＞中堅教諭資質向上研修【前期】教科指導研修シラバス）。

８月２０日（水） 中学校 全体研修	共通研修	講義「ミドルリーダーに向けての心構え」
		講義「学級経営・学年経営について」
		講義「道徳教育の推進」
	選択研修	次の講義・演習から一つ選び研修する。 **①いじめへの具体的対応** 事例を基に、いじめが起きたときの対応と、いじめを起こさないための取組について学び合う。 **②不登校の実際とその対応** 事例を基に、不登校への対応や不登校に陥らないための学級づくりの両面から、具体的な対応の仕方を学び合う。 **③家庭との連携** 事例を基に、保護者との連携を深めるための具体的な取組や課題等について、情報交換や意見交流を行う。 **④外国人児童生徒教育の実際** 中学校における外国人児童生徒教育の指導の在り方について学び、具体的な取組や課題等について、情報交換や意見交流を行う。 **⑤小中の円滑な接続（中学校のみ）** 小学校と中学校の円滑な接続を図り、中１ギャップを解消するための取組や課題等について、情報交換や意見交流を行う。

教科指導研修　教科別開催予定日

国語（小中）	：A グループ 6/20、10/28 B グループ 6/24、11/4	社会（小中）	：7/23、8/27
算数（小）	：A グループ 6/17、10/8 B グループ 6/17、10/22	理科（小）	：8/5、10/14
		理科（中）	：8/5、10/21
		生活（小）	：8/21、10/22
数学（中）	：8/29、10/21	音楽（小中）	：6/24、8/27
図･美（小中）	：8/25、10/15	保体（小中）	：8/18、8/21
技術（中）	：7/24、11/5	家庭（小中）	：7/28、10/17
外･英（小中）	：6/20、10/21		

（注）日程の変更がある場合には、該当者へ別途連絡をする。

※やむを得ない事情で研修に参加させ難いとき、所属長は「令和７年度研修事業案内」ｐ．６の手続きに従って、ｐ．６８の様式７（欠席・遅刻・早退届）を、総合教育センター所長宛てに提出してください。

（3）校外研修【ｅラーニング研修】

受講方法については、５月下旬に送付する実施要項を参照する。

教材名	学習期間
「中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって」	令和７年５月２７日（火）から 令和７年６月２７日（金）まで
「人権教育について（基礎編）」	
「ＥＳＤについて」	令和７年８月１９日（火）から 令和８年１月９日（金）まで
「情報モラル」	

（4）校内研修【教科等指導力向上のためのＯＪＴ】

研修者の能力や適性、担当する教科等に応じ、教科等指導力の向上を目指してＯＪＴの計画を立てる。計画に当たっては、以下の資料を参考にする。

ア　ＯＪＴ（On The Job Training）とは

ＯＪＴとは、職場において研修の時間を新たに設定して取り組むものではなく、研修者自身が、研修の目的意識をもち、自ら調べたり、同僚に相談したり、先輩や管理職に具体的な指導・助言を仰いだりしながら、日常の業務を遂行する中で、意図的・計画的・継続的視点をもって資質・能力を高めていく活動である。

イ　効果的なＯＪＴを進めるための工夫

研修者及び研修に関わる教職員の資質・能力の向上を通して、学校の活性化につなげる。

○研修者の学校経営参画を見据えた課題設定

管理職との面談等を通して、学校経営方針や研修者の状況を踏まえ、課題を設定する。

○職員への周知

研修者がどんな課題で取り組むのかを職員に周知し、相談や助言を受けやすい環境をつくる。

○組織の工夫、場の設定

各校の実態や研修者の状況に応じて、「研修者に相談役としてメンター（指導者・助言者となる同僚）を付ける」「プロジェクトチームを編制する」「既存の会議等を活用する」等、工夫をしながら取り組む。

○振り返り

管理職や関係教職員が適時助言することで、研修が今後の教育活動に生かされるようにする。

ウ　ＯＪＴの実践例

○授業研究を通して教科指導力の向上を図る。

児童生徒の実態を踏まえ、身に付けさせたい力を明確にし、授業実践を展開する。その中で、教務主任をはじめ、同学年や同教科の教員等から指導・助言を得ながら学習指導案を作成し、研究授業を行う。取組の成果をまとめ、校内で共有する。

○学年団の一員として、「総合的な学習の時間」を柱に、目指す児童生徒像を実現する。

前年度の課題を踏まえ、「総合的な学習の時間」の充実に向けて、教務主任や学年主任から指導・助言を得ながら実践を進める。定期的に学年の研究日を計画したり、他学年と状況を確認し有効な指導法などを共有し、同じ学年の教員に提案したりする。

○校内研修の取組内容例（■教科（等）指導）

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善　・個に応じた学習指導の在り方
・授業実践に関する技術　・ＩＣＴ機器の活用　・教材研究の方法と実際
・継続的な授業改善　・協働的な授業研究　・教材・教具の開発
・学級活動の内容と方法　・総合的な学習の時間の計画と実践
・道徳科の授業における教材開発や指導の工夫

エ　ＯＪＴの計画における留意事項

○日常の業務を、教科等指導力を向上させる意図をもって見つめ直し、手だてとする。

○校外研修とＯＪＴが効果的に関連付けられるよう工夫する。

○管理職や先輩からの指導・助言を仰ぐだけでなく、初任者等、後進の育成を含めた、学校組織の活性化にも目を向ける。

○職務上の命令による研修であるので、週休日や休日、勤務時間外の研修は認められない。ただし、勤務の割り振りで対応できると認められる研修については、この限りではない。

（5）計画書「４　校内研修」の記載例

４　校内研修【教科等指導力向上のためのＯＪＴ】

（1）重点的に取り組みたいこと

同学年担当教員と連携しながら、図画工作科における主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を展開する。

（2）研究授業実施計画月

校種・学年・教科・単元・領域等について記入する。

実施計画月	内　容（教科等名・対象学年・領域等）
７月	小学校５年　図画工作科　「造形あそび」
１１月	小学校５年　図画工作科　「造形あそび」

※研究授業実施日を複数設けてもよい

誰と関わりながら、どのような取組をするか、文章で記述する。

（3）ＯＪＴの計画

実施計画月	ＯＪＴの手だて
６月	・授業計画の立案 経営目標や教育課程を踏まえ、目の前の児童生徒の実態から教育課程を明らかにする。授業実践に向けて、教務主任や他の教員等から指導・助言を得ながら、教材研究を進め、授業計画を立案し、校内で共有する。
７月	・授業研究① 同一学年の教員や教科主任等と実践内容を吟味しながら、実践を見直していく。 授業を実践し、協議会や意見聴取等を通して改善点の示唆を得る。
８月	・教科指導研修（校外）を踏まえた振り返り 授業研究①の課題や校外研修で得た知見により、改善点を整理する。 ２学期の授業実践の手だてを明らかにし、学年の教員とともに新たな授業計画を立案する。
１１月	・授業研究② 学年の協力を得て、継続的に研究を進める。 授業を公開する。協議会を実施し、…（略）

４　報告書の提出　　様式３

計画を基に研修及び研究を進め、全ての研修が終了後、報告書を作成し、提出する。

(1) 小・中学校中堅教諭資質向上研修【前期】実施報告書（様式３）

p.１６、p.１７の様式に従い、校外研修（**【総合教育センター等における研修】**）について記載する（ｅラーニング研修については記載済み）。

また、教科等指導力向上のためのＯＪＴについては、「(3) 報告書『２　校内研修【教科等指導力向上のためのＯＪＴ』の記載例」を参考に記載し、報告する。

校長は、研修者と面談の上、事後評価として所見を記載する。

※研修履歴を活用した対話に基づく研修受講を振り返るための期末面談を兼ねて実施してもよい。

(2) 様式３の提出先と提出期限

様式３：　３部　→　２部　→　１部

校長 → **市町村教育委員会** → 教 育 事 務 所 → 総合教育センター

令和８年２月２日(月)　令和８年２月１０日(火)　令和８年２月１９日(木)

※封筒の表左隅に、小・中学校中堅教諭資質向上研修【前期】実施報告書　在中と朱書きする。

(3) 報告書「２　校内研修」の記載例

「研修内容」については、誰と関わりながら、どのような取組をしたか文章で記述する。

・教科等指導力向上のためのＯＪＴ

実施月	研　修　内　容
５月 ６月	・研究計画の確認及び立案 ５月〇日、授業研究の計画について、研修主任や教務主任の助言を受け、授業研究計画の作成スケジュール、検討会議について確認した。その後、学年主任と相談し、領域を決定した。６月〇日、学年部会で研究計画及び学習指導案を提案、検討を行った。学年部会での意見を基に修正を加え、学習指導案を作成した。
７月	・研究授業の実施 ７月〇日、授業を公開した。協議会での意見や参観者の助言を基に　…（略）
９月 １０月	・１学期実践の振り返りを踏まえた授業改善の手だてを確認 ９月〇日、研修主任や教科主任に、１学期実践の進捗状況や分析結果を報告した。取組や手だての有効性を吟味し、修正を加えて新たな授業計画を作成し、１０月〇日の学年部会で提案した。同月には、学年内で授業研究を行い、若手教員にアドバイスをするとともに、学年職員の授業力向上に努めた。

Ⅲ　各種様式

鑑の様式例

１　「研修計画書（案）」の提出

文　書　番　号
令和７年〇月〇日

〇〇〇教育委員会教育長　殿

学校名
校長名

令和７年度中堅教諭等資質向上研修「研修計画書(案)」について

このことについて、下記のとおり提出します。

記

前/後期	研修者 職・氏名	提　出　様　式　（部数、合計枚数）
前期	教　諭・〇〇　〇〇	様式２　（1部、計1枚）
後期	教　諭・〇〇　〇〇	様式２【弾力化M】　（1部、計2枚）
後期	養護教諭・〇〇　〇〇	様式２【通常・弾力化ＭＳ】　（1部、計2枚）
後期	栄養教諭・〇〇　〇〇	様式２【通常・弾力化ＭＳ】　（1部、計1枚）

２　「実施報告書」「特定課題研究報告書」の提出

文　書　番　号
令和８年〇月〇日

〇〇〇教育委員会教育長　殿

学校名
校長名

令和７年度中堅教諭等資質向上研修「実施報告書・特定課題研究報告書」について

このことについて、下記のとおり提出します。

記

前/後期	研修者 職・氏名	提　出　様　式　（部数、合計枚数）
前期	教　諭・〇〇　〇〇	様式３　（3部、計3枚）
後期	教　諭・〇〇　〇〇	様式３【弾力化M】　（3部、計3枚）
後期	養護教諭・〇〇　〇〇	様式３【通常・弾力化ＭＳ】　（3部、計6枚）
後期	養護教諭・〇〇　〇〇	様式４【通常・弾力化ＭＳ】　（1部、計2枚）

Ⅲ　各種様式

様式１

令和７年度小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】自己評価・自己申告表

令和７年〇月〇日

研修者氏名	

１　教員育成指標における事前自己評価

指導力	児童生徒理解		マネジメント力	学級経営・学年経営・学校運営	
	学習指導			学校安全・危機管理	
	生徒指導			同僚との連携・協働	
	多様性への理解と教育支援			地域社会との連携・折衝	

◎特に伸ばしたい、〇伸ばしたい

２　教科・領域等及び分掌に関して、得意分野として今後伸ばしたいことの概要

（教科・領域等）
（校務分掌）

※事前に研修者本人が記入し、面談の資料として校長に提出する。

Ⅲ　各種様式

様式２

令和７年度小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】研修計画書（案）

学校名

校長名

研修者氏名	

１　校長との面談を踏まえ、本研修を通して伸ばしたい資質・能力

指導力	児童生徒理解		マネジメント力	学級経営・学年経営・学校運営	
	学習指導			学校安全・危機管理	
	生徒指導			同僚との連携・協働	
	多様性への理解と教育支援			地域社会との連携・折衝	

◎特に伸ばしたい、○伸ばしたい

２　校外研修【総合教育センター等における研修】（合計３日間）

1	●月●●日（●）	教科指導研修第１日　※国語、算数については、グループが決まっていないため、日付は記入しなくてよい。
2	●月●●日（●）	教科指導研修第２日　※国語、算数については、グループが決まっていないため、日付は記入しなくてよい。
3	８月○○日（○）	講義「ミドルリーダーに向けての心構え」 講義「学級経営・学年経営について」 講義「道徳教育の推進」 選択研修　講義・演習（今日的課題の克服に向けて）

３　校外研修【ｅラーニング研修】

学習期間	教材名
令和７年５月２７日（火） ～６月２７日（金）	「中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって」 「人権教育について（基礎編）」
令和７年８月１９日（火） ～令和８年１月９日（金）	「ＥＳＤについて」 「情報モラル」

４　校内研修【教科等指導力向上のためのＯＪＴ】

（1）重点的に取り組みたいこと

（2）研究授業実施計画

実施計画月	内　　容（教科等名・対象学年・領域等）
月	

※研究授業実施日を複数日設けてもよい。

次ページへ続く。

Ⅲ　各種様式

（3）ＯＪＴの計画

実施計画月	Ｏ　Ｊ　Ｔ　の　手　だ　て
月	
月	
月	

※両面印刷で作成する。

Ⅲ　各種様式

様式３

愛知県総合教育センター所長　殿

学校名

校長名

受講番号		研修者氏名	

令和７年度小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修【前期】実施報告書

１　校外研修

期　日	研　修　内　容　等
○月○○日（○）	教科指導研修第１日
○月○○日（○）	教科指導研修第２日
８月○日（○）	全体研修
ｅラーニング研修	「中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって」「人権教育について（基礎編）」「ＥＳＤについて」「情報モラル」

２　校内研修

教科等指導力向上のためのＯＪＴ　※研修計画書を基に、作成する。

重点的に取り組んだこと	

実施月	研　　修　　内　　容
月	（ｐ．１１の記載例を参考に、具体的に記述する）
月	
月	

次ページへ続く。

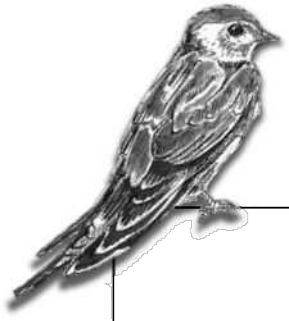
Ⅲ　各種様式

３　研修を通して学んだこと、学校に還元できたこと

４　事後評価

校長所見	

※両面印刷で作成する。



令和７年度

小・中・義務教育学校

中堅教諭資質向上研修【前期】の手引

令和７年４月発行

愛知県教育委員会
〒460－8534
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電　話〈052〉961－2111(代表)

義務教育課
電　話〈052〉954－6799(ダイヤルイン)

愛知県総合教育センター（基本研修室）
〒470－0151
愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾６８番地
電　話〈0561〉38－9507(ダイヤルイン)
ｳｪﾌﾞﾍﾟｰｼﾞ　https://www.pref.aichi.jp/soshiki/sogokyoiku-c/

総合教育センター

あいちの教育　教育は未来へつなぐ希望の輪